

科目名	キャリア教育(1)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原良介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワー ク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	クラスのノームの意識付けを行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う・学校のルール	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	グループワーク:友達づくり	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「主体性」:状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「計画力」:起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	力を学ぶ スペシャリストになるために	配布プリントを記入し次回提出
6		講義・演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義・演習	プロとしての言葉遣いやマナーを学ぶ メールマナー・電話マナー	配布プリントを記入し次回提出
8		講義・演習	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義・演習	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	「計画力」:計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	「実行力」:目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	「課題発見力」:今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・先輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育(2)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原良介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。 コミュニケーションスキルアップ検定の合格。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己理解 ① 働く意義(勤労観・職業観)を理解し考える	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた校内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「働きかけ力」:自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	グループワーク:業界が求める人材を理解し、自己の目標を設定する/履歴書	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		講義・演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた校内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		講義・演習	自己理解 自己PR/プロフィールシート作成 <自己PR・趣味特技> <専門分野・関心事>	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		講義・演習	社会人準備 ① マネー教育(収入と支出のバランスを学ぶ)	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義・演習	社会人準備 ② 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α 」を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	社会人準備 ③ 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 + α 」を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	社会人準備 ④ 社会保険や税の仕組みなどを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	社会人準備 ⑤ 社会人の基礎を身につける	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	キャリア教育(3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	笠原良介
学科・専攻	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行 動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チーム ワーク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「傾聴力」: 人の話を聞くことの重要性を知り、相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	「発信力」: 伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
6		講義・演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出
7		講義・演習	プロとして活動する上での言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
8		講義・演習	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出
9		講義・演習	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出
10		講義・演習	「計画力」: 計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	「実行力」: 目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出
14		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	「明日への扉」の参加を通じてクラス・後輩とのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック				

科目名	キャリア教育(4)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	笠原良介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで主体的に行動 できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。						
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「傾聴力」「発信力」「チームワー ク力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に行動できる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点口						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		講義・演習	「チームワーク力」:現状と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		講義・演習	「働きかけ力」:自分から進んで取り組む力、チームワーク力と共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		講義・演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグループワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義・演習	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		講義・演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		講義・演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		講義・演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義・演習	エンターテインメント業界で活躍している企業の方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義・演習	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義・演習	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義・演習	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義・演習	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
15		講義・演習	進級制作展の参加を通じてクラス・他セクションとのコミュニケーションを仕事を通じて学ぶ	参加した経験をレポートにて提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
個人作成プリント・キャリアプランシート・キャリアプラン作成補助シート・ジョブカード・学生サポートハンドブック				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Private Lesson(1)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山内 薫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	プライベートレッスンでは、基礎的な運指やリズムトレーニング、スケール練習、音楽理論の応用、グルーヴ強化、楽曲分析、即興演奏、機材の使い方、表現力向上などを学び、個々のレベルや目標に合わせた指導を行います。						
到達目標	学生の目標に応じた指導を行い、求めるレベルへの到達をサポートします。						
評価方法と基準	評価は、技術の向上度、リズムや表現力の安定性、課題への取り組み姿勢、楽曲理解度、即興演奏の適応力などを基準とし、学生の目標達成度や成長過程を総合的に判断して行われます。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	初回は各自のフォームチェックと今後のポイントを話し合う。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
2		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
3		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
4		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
5		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
6		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
7		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
8		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
9		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
10		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
11		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
12		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
13		講義・演習	最終日はこれまでの学習成果を確認し、今後の課題や目標を明確にし、学生が自立して学習を続けられるようサポートします。	自身の成長を振り返り、習得した技術や課題を整理し、最終日に演奏する楽曲やフレーズを準備する。レッスンのフィードバックをもとに、今後の練習計画を立て、継続的なスキル向上を目指す。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Private Lesson(2)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山内 薫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	プライベートレッスンでは、基礎的な運指やリズムトレーニング、スケール練習、音楽理論の応用、グルーヴ強化、楽曲分析、即興演奏、機材の使い方、表現力向上などを学び、個々のレベルや目標に合わせた指導を行います。						
到達目標	学生の目標に応じた指導を行い、求めるレベルへの到達をサポートします。						
評価方法と基準	評価は、技術の向上度、リズムや表現力の安定性、課題への取り組み姿勢、楽曲理解度、即興演奏の適応力などを基準とし、学生の目標達成度や成長過程を総合的に判断して行われます。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	初回は各自のフォームチェックと今後のポイントを話し合う。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
2		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
3		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
4		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
5		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
6		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
7		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
8		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
9		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
10		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
11		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
12		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。	
13		講義・演習	最終日はこれまでの学習成果を確認し、今後の課題や目標を明確にし、学生が自立して学習を続けられるようサポートします。	自身の成長を振り返り、習得した技術や課題を整理し、最終日に演奏する楽曲やフレーズを準備する。レッスンのフィードバックをもとに、今後の練習計画を立て、継続的なスキル向上を目指す。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンを確認します。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Digital Foundation(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	増田祐生
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(レタッチ中心) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(ベジェ曲線操作、デザイン中心) STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(web)の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション。Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法	
2		講義・演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイムテーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作方法	
3		講義・演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解。基本操作(ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡張、新規作成、保存)【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールバー、パレットなど基本操作方法	
4		講義・演習	【Ai】基本操作 選択、図形、バウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ツール、スタイライズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ベジェ曲線、スウォッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法	
5		講義・演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法	
6		講義・演習	【Ai】配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。(コンセプト～ラフ作成・色理解～提案～レイアウトデザイン～ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベントフライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。	
7		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習: イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。	
8		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン～ブラッシュアップ) よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF	
9		講義・演習	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINEクリエイターズマーケットへ登録する。	
10		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商用に利用できるものの検索方法とDL方法	
11		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういう点がポイントになるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。	
12		講義・演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レタッチ、保存形式指定など下準備を整える。	
13		講義・演習	ポートフォリオサイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える		
【使用教科書・教材・参考書】					
Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション					

科目名	Digital Foundation(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	増田祐生
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	写真やビデオ等の映像機器及び映像編集ソフトを用いた表現に関する学習を通して、表現力・映像処理能力を高める。						
到達目標	履修者全員が動画制作をできるようになる。 Adobe AfterEffectsの基本操作ができるようになる。(アニメーション作成・エフェクト適用・実写合成中心) Adobe Premiereの基本操作ができるようになる。(カット編集中心) Youtubeに動画投稿し、自身が制作した動画を他社に共有できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	【Ae】AfterEffectsの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、コンポジション作成、平面作成、テキスト入力、図形作成、素材読み込み。最終課題説明。	【事前動画説明】AEを使用して作れるものの紹介、基本操作方法
2		講義・演習	【Ae】キーフレームアニメーションの理解。 基本的なパラメータを使用したキーフレームアニメーションの作成、動画書き出し方法を学ぶ。	【事前動画説明】AEの基本的なパラメータ操作方法、キーフレーム設定方法、動画の書き出し方法
3		講義・演習	【Ae】トランジションの作成。 キーフレームアニメーションを用いてトランジション映像を作成し、発表をする。	【事前動画説明】トランジションの作成チュートリアル
4		講義・演習	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。	【事前動画説明】リリックビデオの紹介、エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法
5		講義・演習	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。 エフェクトやテキストアニメーションプリセットを利用し、短いリリックビデオを作成・発表する。	【事前動画説明】エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法の続き
6		講義・演習	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、エフェクトの機能を学ぶ。	【事前動画説明】エフェクトを利用した動画の紹介、エフェクトの操作方法
7		講義・演習	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、動画を作成、発表する。	【事前動画説明】エフェクトの操作方法の続き
8		講義・演習	【Ae】自動トラッキング機能について理解し、実写合成に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材と入力したテキストを合成する。	【事前動画説明】自動トラッキングのチュートリアル
9		講義・演習	【Pr】Premiereの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、シーケンス作成、素材の読み込み、カット編集、字幕入力、色調補正、動画書き出し。Youtubeに動画を投稿しURLを共有する。	【事前動画説明】Premiereを使用して作れるものの紹介、基本操作方法。Youtubeへの動画投稿方法。
10		講義・演習	最終課題選定。リリックビデオ・ダンスビデオ、実写合成から最終課題のジャンルを選択し、映像の構成を考える。 アイデア出し～絵コンテ制作について理解し、完成させる。	【事前動画説明】最終課題の各ジャンルの参考映像を紹介。 アイデア出しの方法、絵コンテの書き方を解説。
11		講義・演習	個人制作	個人制作
12		講義・演習	個人制作	個人制作
13		講義・演習	個人制作と最終課題の提出(Youtubeに投稿しリンクを提出する) 到達度テスト	【事前動画説明】後期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える	
【使用教科書・教材・参考書】				
Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション				

科目名	Basic Keyboard (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードによる基礎的な奏法の習得、バックイング能力の向上を目指す。受講者のこれまでの楽器経験やその習熟度は様々であるため、POPSの範疇における音楽理論やコードの知識において学生それぞれの目的に合わせたアドバイスを行う。						
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バックイングや簡単な楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	単音と和音 五線譜 コードとコード進行 ボイシング展開の基礎	それぞれの用語について知る□
2		講義・演習	練習課題曲1、構成音とその関係性	課題曲を通し、基礎的なコードについて知る□
3		講義・演習	バックイングパターン1、構成音とボイシング展 開	コードの展開系を習得する 基本形と垣根の ないものとして理解することが理想□
4		講義・演習	バックイングパターン1、メジャーコードとマイ ナーコード	バックイングパターンの練習に加え、メジャーコードとマイ ナーコードの、鍵盤上での違いを知る
5		講義・演習	バックイングパターン1、様々なコード進行	バックイングパターンの練習を、様々なコード進行を用いて 行う。習熟度に差があるため、初心者へのフォローを重点 的に行う
6		講義・演習	バックイングパターン2□	様々な楽曲で用いられるバックイングパターンの一例を知 る。前回までと比べ、右手、左手のコンビネーションが多 様化する
7		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活か す
8		講義・演習	バックイングパターン2、四和音について知る□	バックイングパターンの練習に加え、 四和音の構成音と鍵盤での弾き方を知る□
9		講義・演習	バックイングパターン2、パラディドルリズム□	課題で用いられている多様なリズムを、 譜面を用いて理論的かつ体感的に習得する□
10		講義・演習	バックイングパターン2、様々なコード進行□	バックイングパターンの練習を、四和音を言った様々な コード進行を用いて行う 習熟度に差があるため、初心者 へのフォローを重点的に行う
11		講義・演習	練習課題曲2□	マスターリズム譜の読み方を知る。課題曲の コード分析に取り掛かる
12		講義・演習	練習課題曲2□	ここまで学んだパターンを用いて練習する□
13		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活か す
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出す	
【使用教科書・教材・参考書】				
テキストのオンライン受け取りができるデバイス(PC、iPadなど)				

科目名	Basic Keyboard (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードによる基礎的な奏法の習得、バックイング能力の向上を目指す。受講者のこれまでの楽器経験やその習熟度は様々であるため、POPSの範疇における音楽理論やコードの知識において学生それぞれの目的に合わせたアドバイスを行う。						
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バックイングや簡単な楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	練習課題曲1、オンコード□	オンコードについて理解し、演奏できるようになる□
2		講義・演習	練習課題曲1、特殊なコード□	特殊なコード(dim,aug,sus4など)を理解する□
3		講義・演習	練習課題曲1、イントロ、リフを演奏する□	コードバックングに加え、楽曲中で必要なフレーズを演奏する□
4		講義・演習	練習課題曲2、打鍵について□	弾き語りすることを見据え、打鍵の強さによって変化する音を感じとる□
5		講義・演習	練習課題曲2、演奏フォームについて□	肌力や姿勢、椅子への座り方を意識し、演奏フォームの見直しを簡単な実験を通じて行う
6		講義・演習	練習課題曲3□	譜読みを行う名曲のコード進行を学ぶ□
7		講義・演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活かす
8		講義・演習	練習課題曲3、ボイスिंगでの表現□	ボイスिंगの変化によって変わるバックキングの響きを感じとる□
9		講義・演習	練習課題曲4、ディグリーコードを用いた移調□	自身で弾き語りすることを見据え、マスターリズム譜から移調する方法を知る□
10		講義・演習	練習課題曲4、コードアレンジの方法□	循環コードを用いた課題曲を題材に簡単なコードアレンジの方法を学ぶ
11		講義・演習	練習課題曲4、セカンダリードミナント□	セカンダリードミナントや代理コードを耳で聞いて違いがわかるようになる□
12		講義・演習	マスターリズム譜の作り方	既得の歌詞にコード性やリズム面からマスターリズム譜面を作成する方法を学ぶ。直接的にキーボードとの関連はないが
13		講義・演習	試験と復習□	学んだスキルを生かして実演する今後に向けた課題を洗い出す□
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出す	
【使用教科書・教材・参考書】				
テキストのオンライン受け取りができるデバイス(PC、iPadなど)				

科目名	Expression A (1) (ダンス基礎(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (2) (ダンス基礎(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (1) (Diction(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 亜美
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。	
2		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。	
3		講義・演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。	
4		講義・演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する	
5		講義・演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する	
6		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する	
7		講義・演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーブを作ってリード表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する	
8		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する	
9		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する	
10		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する	
11		講義・演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する	
12		講義・演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。英語を発音するための研究。800-1000字以内でレポートを作成する。	
13		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる。試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。振り返りを行いレポートを作成する。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B (2) (Diction(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野 亜美
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		講義・演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		講義・演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		講義・演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		講義・演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		講義・演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
13		講義・演習	英語の発音するための母音レクチャー、表現が実践できる 試験上復習	英語を発音するための母音レクチャー確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (1) (Piano Duo(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		講義・演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる試験	歌からスタートする音楽を学び実践できる。 1-14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (2) (Piano Duo(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		講義・演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる 試験	1-14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Reading (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義・演習	メジャースケール(1)。4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義・演習	メジャースケール(2)。4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義・演習	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義・演習	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義・演習	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義・演習	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成
8		講義・演習	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義・演習	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義・演習	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義・演習	Cメジャースケール(旋律的短音階)の連符(2)。C短三和音を理解し説明ができる。	Cメジャースケール(旋律的短音階)の連符(2)。C短三和音を復習レポート作成
12		講義・演習	Gマイナースケール(和声的短音階) 8分の6 6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Gマイナースケール(和声的短音階) 8分の6 6拍子(2拍子として)を復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Reading (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義・演習	メジャースケール(1)。4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義・演習	メジャースケール(2)。4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義・演習	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義・演習	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義・演習	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義・演習	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成
8		講義・演習	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義・演習	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	Fメジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義・演習	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義・演習	Cメジャースケール(旋律的短音階)の連符(2)。C短三和音を理解し説明ができる。	Cメジャースケール(旋律的短音階)の連符(2)。C短三和音を復習レポート作成
12		講義・演習	Gマイナースケール(和声的短音階) 8分の6 6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。	Gマイナースケール(和声的短音階) 8分の6 6拍子(2拍子として)を復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。音名を理解し言える。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
2		講義・演習	音名、音符、休符を理解し言える。音符、休符を理解し説明できる。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
3		講義・演習	拍子、複合拍子を理解し説明できる。記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
4		講義・演習	反復記号を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成、反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
5		講義・演習	音程を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作成、音程(2.3.6.7度、＃ ｂ あり)を復習しレポート作成
6		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成、5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
7		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成、ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
8		講義・演習	スコアリーディングを理解し説明できる。中間テスト	総復習をし、理解度を高めレポート作成
9		講義・演習	奏法を理解しその説明ができる。近親調を理解しその説明ができる	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習しレポート作成、それぞれの調の関係性を理解し復習しレポート作成
10		講義・演習	移調を理解しその説明ができる、トライアドを理解しその説明ができる	五線を用いて移調を理解し復習しレポート作成、コードの概念とトライアドの構造をを理解し復習しレポート作成
11		講義・演習	7thコードを理解しその説明ができる、7thコードの復習とdim7を理解しその説明ができる	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが出来るようにしを理解し復習しレポート作成、トライアド、7thコード、dimコードの構造をを理解し復習しレポート作成
12		講義・演習	転回形を理解しその説明ができる、その他のコードを理解しその説明ができる	転回形の表記方法を復習し、G-clefでの簡単なヴォイシングが出来るように理解し復習、add9、sus4、6thコードを復習し実際に弾いてを理解し復習しレポート作成
13		講義・演習	テンションを理解しその説明ができる	9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート作成9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート作成
14		講義・演習	スコアリーディングを理解しその説明ができる、まとめ、期末予備テスト	総復習をし、を理解し復習しレポート作成、復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15		講義・演習	期末テスト、総復習	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成
2		講義・演習	音名を理解し言える。	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
3		講義・演習	音名、音符、休符を理解し言える。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
4		講義・演習	音符、休符を理解し説明できる。	音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
5		講義・演習	拍子、複合拍子を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
6		講義・演習	記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成
7		講義・演習	反復記号を理解し説明できる。	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
8		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（度数の数え方、全音と半音）を復習しレポート作成
9		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（2.3.6.7度、＃♭あり）を復習しレポート作成
10		講義・演習	音程を理解し説明できる。	音程（1.4.5.8度、＃♭あり）を復習しレポート作成
11		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	メジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成
12		講義・演習	メジャースケールを理解し説明できる。	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
13		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成
14		講義・演習	マイナースケールを理解し説明できる。	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
15		講義・演習	期末テスト	テスト学習し、レポート作成
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。	
2		講義・演習	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
3		講義・演習	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
4		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
5		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
6		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
7		講義・演習	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える	
8		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
9		講義・演習	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
10		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
11		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
12		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。	
13		講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。	
14		講義・演習	期末テスト	テスト準備対策をする	
15		講義・演習	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Ear Training (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音の歴史、モース信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義・演習	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義・演習	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義・演習	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次の授業に備える
8		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義・演習	8分休符（裏打ち）のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major.minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義・演習	中間予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。
14		講義・演習	中間テスト	テスト準備対策をする
15		講義・演習	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Theory (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習を理解し説明できる。メジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成	
2		講義・演習	メジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。ドミナントモーションを理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成	
3		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高めマイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高める	
4		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成、前回までの理解し復習レポート作成	
5		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーフアイブ、偽終止についてを理解し復習セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成	
6		講義・演習	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。定番コードパターンを理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成	
7		講義・演習	クリシェを理解し説明できる。パッシングコードを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成、パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成	
8		講義・演習	代理コード(裏コードを含むダイアトニック外の代理コード)を理解し説明できる。借用和音を理解し説明できる。	メジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成	
9		講義・演習	転調を理解し説明できる。アナライズを理解し説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習楽譜と音源から楽曲分析を理解し復習レポート作成	
10		講義・演習	ヴォイスングを理解し説明できる。アペイラブルノートスケール(メジャー)を理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成	
11		講義・演習	アペイラブルノートスケール(マイナー)を理解し説明できる。ドミナントスケールを理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習V7に適したスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成	
12		講義・演習	コードに適したスケールを理解し説明できる。その他のスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成	
13		講義・演習	スコアリーディングを理解し説明できる。	復習をしを理解し復習今までの内容を復習し理解度を高める 期末テストを理解し復習レポート作成	
14		講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。	
15		講義・演習	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。	
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Music Theory (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習を理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めレポート作成
2		講義・演習	メジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成
3		講義・演習	メジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めレポート作成
4		講義・演習	ドミナントモーションを理解し説明できる。	ドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成
5		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組み(ナチュラルマイナー)を五線譜に書けるよう理解度を高めレポート作成
6		講義・演習	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	マイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるよう理解度を高めレポート作成
7		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成
8		講義・演習	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	前回までのを理解し復習レポート作成
9		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーフाइブ、偽終止についてを理解し復習レポート作成
10		講義・演習	ケーデンスを理解し説明できる。	セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成
11		講義・演習	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習レポート作成
12		講義・演習	定番コードパターンを理解し説明できる。	コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成
13		講義・演習	クリシェを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
14		講義・演習	パッシングコードを理解し説明できる。	パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成
15		講義・演習	期末テスト	これまでの確認
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り(CMajor)、2声メロディー、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成	
2		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor、2声ハーモニー)、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成	
3		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor)、3度音程の2声ハーモニー書き取り、音程ドリル コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習確認理解しレポート作成	
4		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) P4.P5.トライトーンのハーモニー練習 コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習確認理解しレポート作成	
5		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
6		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
7		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成	
8		講義・演習	リズム打ち・書き取り(C,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅳ、Ⅴの聴き取り、Ⅳ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
9		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー) 6度音程のハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
10		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
11		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー) オクターブとユニゾンのハーモニー練習 コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
12		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
13		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成	
14		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	総復習を行い中間テストに備え確認理解しレポート作成	
15		講義・演習	中間テスト	総復習を確認理解しレポート作成	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					
「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	Ear Training (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を2分割し、60点以上を合格とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、2声メロディーは三連符導入、2声ハーモニーは2度音程導入)を理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
2		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
3		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(Ⅱm)ーⅤーⅠの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
4		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
5		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
6		講義・演習	曲を題材にしたリズム打ち、リズム書き取り、メロディー書き取り メロディー書き取り(6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅥmを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
7		講義・演習	前回までの内容を復習する	今までの内容を復習し次の授業に備え確認理解しレポート作成	
8		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
9		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
10		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
11		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
12		講義・演習	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅠ、Ⅱm、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
13		講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成	
14		講義・演習	期末テスト	総復習を行い中間テストに備える確認理解しレポート作成	
15		講義・演習	テスト返却、総復習	聴こえる音やリズムを正しく楽譜に書き、コードの響きや種類を聴き分けられる	
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Music History (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西田 剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の重要な柱であるジャズについて概要(起源から発展)を学びます。 その歴史の中で、ニューオリンズジャズ、スイング、モダンジャズ、フュージョンなどに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	ジャズの進化とともにアメリカの黒人音楽について深い理解を示すことができる。それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品とジャズを深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	授業の進め方(資料、音楽、DVD、実演)の確認 アメリカの歴史・地理的な特徴を理解する	レベルチェック:小テスト アメリカの黒人音楽の進化において重要な都市はどこか?	
2		講義・演習	19世紀のアメリカの音楽。	アメリカ音楽の父 スティーブンフォスター Stephen Foster)について	
3		講義・演習	ジャズ、ラグタイム、ブルース、その他の音楽や活動のルーツ。	ジャズ発祥の地であるニューオーリンズが、歴史上どのような都市であったか?	
4		講義・演習	ニューオリンズジャズ	ジャズが生まれた当時とは、どんな音楽が主流となる楽器は? 音楽的特徴は?	
5		講義・演習	スウィングとビッグバンドジャズ。	ルイ・アームストロング カンザスシティ、フランク・シナトラ、チャーリー・パーカー、D. ガレスピー、C. モンクなどに広がったスウィングについて	
6		講義・演習	ここまでのポイント整理	サウンド構成、バンドリーダーの特徴、リズム ニューオリンズジャズ、スウィングジャズ、モダンジャズの違いを言葉で説明できる。	
7		講義・演習	ビバップ	第二次大戦後に生まれた新しいスタイルのジャズ「ビバップ」について、スウィングとの違い・特徴を考察する。	
8		講義・演習	ハードビバップ、アフロキューバンジャズ、ウェストコーストジャズ	ビバップ以降活躍した音楽家(M.デイヴィス、C.パーカー、D.ガレスピー、C.モンクなど) 主となる楽器、そのアプローチを理解する。	
9		講義・演習	モードジャズ、フリージャズ	ビバップからフリージャズに至るジャズの進化 J.コルトレーン	
10		講義・演習	ビバップ以降、ジャズとロックの融合。	ビートルズの登場など若者の関心が、ジャズからロックへ以降する中で新しいジャズを生み出した改革者を知る。 キーワード:クロスオーバー	
11		講義・演習	フュージョン、今日のジャズ。	マイルスデイビスの影響 ハービー・ハンコック、ウェザーリポートなどを考察する。	
12		講義・演習	テスト		
13		講義・演習	振り返り	ニューオリンズジャズ～スウィング～ビバップ以降～フュージョンの流れを時代背景や、それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			興味の幅を広げることが何よりも大切。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Music History (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西田 剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の発展において重要なコンポーザーと、その功績を学びます。 学習していく中で、ジャズ、ブルース、ロック、ファンク、ブラックコンテンポラリー、ポップスの発展を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	現代のポップスの礎となっているアメリカの黒人音楽を創り上げた偉大な作曲家について深い理解を示すことができる。それは、現代のポップスを聴いた時の分析力となり、その音楽のルーツがわかるようになる。 そして、自分の作品とルーツとなる音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト80% 2) 平常点20%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	授業の進め方(資料、音楽、DVD、実演)の確認 フュージョン・ジャズ	レベルチェック:小テスト ラグタイムについて	
2		講義・演習	Duke Ellington (1899-1974) Greatest Composer/Band leader	ニューヨークジャズ、ビッグバンドジャズ、ダンスとの関連について学ぶ。	
3		講義・演習	ルイ・アームストロング Louis Armstrong (1901-1971) Birth of Jazz	ニューオリンズNO.1のトランペッター、歌手としてのルイ・アームストロングについて学習。	
4		講義・演習	ロバート・ジョンソン Robert Johnson (1911-1938) Roots of Rock	デルタブルースとは何か？彼がなぜロックのルーツと呼ばれるのか？学習。	
5		講義・演習	チャーリー・パーカー Charlie Parker (1920-1955) Master of Jazz improvisation	ビバップについて、しっかりと復習する。以降の音楽への影響は何か？考察する。	
6		講義・演習	マイルス・デイビス Miles Davis (1926-1991) African-American Jazz musician	マイルスがジャズの発展と、どう関わっていたのか？活動した年代と変化について学習する。	
7		講義・演習	ジェームス・ブラウン James Brown (1933-2006) God father of Soul	ソウルミュージック、ファンクの誕生 人種問題も含め功績を理解する。	
8		講義・演習	クインシー・ジョーンズ Quincy Jones (1933-) The Producer	プロデューサーの仕事とは何か？クインシーの残した作品からプロデューサーの仕事を考える。	
9		講義・演習	ジミ・ヘンドリックス Jimi Hendrix (1942-1970) Guitar Hero	エレキギターの可能性を最大限引き出した彼の功績を再考し、未来を探る。	
10		講義・演習	ステヴィー・ワンダー Stevie Wonder (1950-) Magic of Songwriting	音楽性だけではなく、作詞・作曲の天才的な家なのだろうか？ セシル・デビルを分析かつ考察してみよう	
11		講義・演習	マイケル・ジャクソン Michael Jackson (1958-2009) King of Pops	その名の通り キングオブポップス 彼を育んだ音楽、彼の作品、さらには現代のポップスへの影響力を学ぶ。	
12		講義・演習	テスト		
13		講義・演習	振り返り	ニューオリンズジャズ～スイング～ビバップ以降～フュージョンの流れを時代背景や、それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			興味の幅を広げることが何よりも大切。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	バークリー試験対策(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岡居 啓介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バークリー音楽大学へ留学し、第二位優等(Magna Cum Laude)を受賞し卒業。中学生の頃から黒人差別の歴史と					
授業の学習 内容	バークリー音楽大学への編入学を目指す学生を対象に、大学の教育理念や制度、単位互換制度、専攻内容、留学までの流れについて学ぶ。また、Audition & Interview (A&I) の概要や求められる能力を理解し、今後の学習目標を設定する。					
到達目標	バークリー音楽大学の教育内容や特徴を理解している 編入学制度および単位互換制度を理解している A&Iの概要と評価項目を理解している 留学に向けた学習目標を設定できる					
評価方法と基準	授業への参加状況、課題への取り組み状況、授業内演習への参加度を総合的に評価する。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス／バークリー音楽大学の概要	バークリー音楽大学およびA&Iの概要について調査する
2		講義・演習	バークリーの教育システムと専攻理解	興味のある専攻・コースについて情報収集を行う
3		講義・演習	単位互換制度と編入学制度の理解	編入制度および留学までの流れを整理す
4		講義・演習	留学スケジュールと必要な準備	自身の留学目標とスケジュールをまとめる
5		講義・演習	バークリー進学に必要な情報収集方法	大学公式情報や関連資料を調査する
6		講義・演習	Audition & Interviewの概要と評価基準	A&Iの評価項目について確認する
7		講義・演習	音楽家としての目標設定とキャリア形成	将来の目標や活動方針を整理する
8		講義・演習	実技試験に向けた基礎練習計画	日々の練習計画を作成する
9		講義・演習	音楽英語①（自己紹介）	英語による自己紹介を作成する
10		講義・演習	音楽英語②（音楽活動の説明）	自身の音楽活動を英語で説明する練習を行う
11		講義・演習	自己分析と自身の強みの整理	自身の強みや特徴を整理する
12		講義・演習	志望動機の構築	志望理由の要点をまとめる
13		講義・演習	前期内容の振り返りと目標設定	前期の学習内容を振り返り、今後の課題を整
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	実践内容の振り返りを行う
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	実践で得た学びをレポートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バークリー試験対策(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岡居 啓介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バークリー音楽大学へ留学し、第二位優等(Magna Cum Laude)を受賞し卒業。中学生の頃から黒人差別の歴史と					
授業の学習 内容	バークリー音楽大学への編入学に向けて、情報収集能力や自己分析力を養う。また、Interviewで必要となる自己表現力やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、Ear Training、Sight Reading等の基礎的な音楽能力について理解を深める。					
到達目標	自身の音楽活動や将来目標について整理できる Interviewで求められる基本的な表現力を身につける Ear TrainingおよびSight Readingの基礎を理解している 編入試験に向けた準備事項を理解している					
評価方法と基準	授業への参加状況、課題への取り組み状況、授業内演習への参加度を総合的に評価する。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の振り返りと後期目標設定	前期の学習内容を振り返る
2		講義・演習	パークリーが求める学生像の理解	パークリーに関する情報収集を行う
3		講義・演習	音楽活動の振り返りと自己分析	自身の活動歴を整理する
4		講義・演習	志望理由と進路目標の整理	将来の目標について考える
5		講義・演習	Interviewの概要と評価基準	Interviewの内容について調査する
6		講義・演習	コミュニケーションと自己表現	自己紹介内容を整理する
7		講義・演習	パークリー関連情報の理解①	パークリー公式サイトや関連資料を確認する
8		講義・演習	パークリー関連情報の理解②	A&Iに関する資料や動画を視聴する
9		講義・演習	Ear Trainingの概要と学習方法	音感トレーニングに取り組む
10		講義・演習	Ear Training基礎演習	授業内容の復習を行う
11		講義・演習	Sight Readingの概要と学習方法	読譜練習を行う
12		講義・演習	Sight Reading基礎演習	初見演奏・初見歌唱の練習を行う
13		講義・演習	A&Iに向けた学習計画の作成	今後の課題を整理する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践内容の振り返りを行う
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践で得た学びをレポートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(1) (韓国語Optional(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(2) (韓国語Optional(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	徐慧精
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	Global Communication (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be 動詞 (am, are) を使って自己紹介 (国籍や出身) する、または出身地を尋ねる会話を練習、疑問代名詞 [What] を使って、自分の個人情報相手を伝え、また相手の情報を聞く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	名詞の所有を表す [s] と [s'] を使って、自分の家について話す、[it is] を使って、家具について話す、		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているのかを話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	コミュニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品のレビューを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける		
【使用教科書・教材・参考書】					
EVOLVE 1					

科目名	Global Communication (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can' t] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can' t] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
EVOLVE 1				

科目名	日本語講座(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト（20～30分）テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならでは、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あっての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	日本語講座(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～をにおいて他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかに ～とは言えないまでも ～とい～とい 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働きかける語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	Digital Foundation(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	増田祐生
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①急速に進む動画含むコンテンツ市場ではエンドユーザーのニーズに沿うことだけではなく新しい潜在ニーズを掘り起こし、制作者(アーティスト、クリエイター)自身が流行り(buzz)の源泉になる事も大切です。 ②自身の演奏技術の絶対的な質は大前提で、それらをより魅力的かつ効果的なビジュアル・デザイン・メッセージを込めてコンテンツ化することによりAIには出せない「自分らしさ」の価値が上がります。 ③テクニカルだけではなく、アイデア・デザイン・ブランディングを一緒に考えながら学んでいきましょう！						
到達目標	①Adobe Creative Cloud(Premiere Pro,After Effects,Illustrator,Photoshop)を主に使用しながら、自分らしさに納得のいく動画作品(歌唱動画・演奏動画など)の制作・およびローンチをする。 ②リリック動画の制作(フォントの選び方・背景・アニメーション・Audioデータとのタイミングの合わせ方)が出来る。 ③YouTube投稿の際のサムネイル画の制作をする。(アスペクト比・色味・フォント・アテンションを引くデザイン) ④実写での効果的な撮影方法・画角の選定、LUT(色編集)の方法を学び・実践する。 ⑤ショート動画でのインパクトのあるパーソナルなアイデアをブレストする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Premiere Proの基本操作ができる。 自身の活動への価値を理解できる。	Youtubeなどで操作方法について動画学習
2		講義・演習	サンプル音源を使用して、音に合わせたカット編集プリ セットのトランジションエフェクトを使った編集ができる。	興味のある動画メディアを作り手目線で視聴する
3		講義・演習	テキストの作成・フォントの選定ができる。 サンプル素材を使って簡単なMVが制作できる。	授業内で紹介したアーティストなどの 映像作品をチェック
4		講義・演習	サンプル素材を使ってLUT(色編集)ができる。	授業内で紹介したアーティストなどの 映像作品をチェック
5		講義・演習	講義1～4でインプットしたスキルを様々なサンプル素材を 使って編集することができる。	作業フローの確認・復習
6		講義・演習	講義5で制作した作品を講師がディレクション。	興味のある動画メディアを作り手目線で視聴する
7		講義・演習	Illustratorを使用してインパクトのある動画タイトルを 制作できる。	興味のある動画メディアを作り手目線で視聴する
8		講義・演習	Illustratorを使用して制作したデータを After Effectsでアニメーション化することができる。	作業フローの確認・復習
9		講義・演習	Photoshopを使用して画像レタッチ、背景透過が できる。	Youtubeで目をひくサムネイルを探す。
10		講義・演習	講義7～9でインプットしたスキルを駆使して YouTubu仕様のサムネイル画を制作できる。	作業フローの確認・復習
11		講義・演習	Premiere Pro、After Effectsを使ってサンプル楽曲を 使用して簡単なリリック動画が制作できる。	作業フローの確認・復習
12		講義・演習	個人制作のテーマ選定をし作業を開始できる。	興味のある動画メディアを作り手目線で視聴する
13		講義・演習	制作した作品の書き出しをしてアップロードできる。	作業フローの確認・復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Digital Foundation(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	増田祐生
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①急速に進む動画含むコンテンツ市場ではエンドユーザーのニーズに沿うことだけではなく新しい潜在ニーズを掘り起こし、制作者(アーティスト、クリエイター)自身が流行り(buzz)の源泉になる事も大切です。 ②自身の演奏技術の絶対的な質は大前提で、それらをより魅力的かつ効果的なビジュアル・デザイン・メッセージを込めてコンテンツ化することによりAIには出せない「自分らしさ」の価値が上がります。 ③テクニカルだけではなく、アイデア・デザイン・ブランディングを一緒に考えながら学んでいきましょう！						
到達目標	①Adobe Creative Cloud(Premiere Pro,After Effects,Illustrator,Photoshop)を主に使用しながら、自分らしさに納得のいく動画作品(歌唱動画・演奏動画など)の制作・およびローンチをする。 ②リリック動画の制作(フォントの選び方・背景・アニメーション・Audioデータとのタイミングの合わせ方)が出来る。 ③YouTube投稿の際のサムネイル画の制作をする。(アスペクト比・色味・フォント・アテンションを引くデザイン) ④実写での効果的な撮影方法・画角の選定、LUT(色編集)の方法を学び・実践する。 ⑤ショート動画でのインパクトのあるパーソナルなアイデアをブレストする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	実写のコンテンツ作りについてのガイダンス	前期の作業フローの復習
2		講義・演習	実写に合成できるフリー素材を探し 合成編集ができる。	授業内で紹介したメディアを視聴する
3		講義・演習	After Effectsを使って、様々なアニメーション エフェクトを制作することができる。	After Effectsの基本操作のおさらい
4		講義・演習	After Effectsを使って、様々なインパクトのある ロゴ、タイトルを制作することができる。	After Effectsの基本操作のおさらい
5		講義・演習	After Effectsを使って、3Dを使った編集作業が できる。	作業フローの確認・復習
6		講義・演習	After Effectsを使って、カメラ機能を使った 空間を意識した編集作業ができる。	作業フローの確認・復習
7		講義・演習	講義③～⑥で覚えたスキルを使って Lyrics Videoの制作ができる。	作り手目線で様々なメディアに触れる 審美眼を高める
8		講義・演習	講義③～⑥で覚えたスキルを使って 実写歌系Videoの制作ができる。	作り手目線で様々なメディアに触れる 審美眼を高める
9		講義・演習	自由演習 ここまでで得たスキルを反復して使ってみる 質疑応答など	作業フローの確認・復習
10		講義・演習	自由演習 全員でブレストをして個人制作のネタだしをする。	個人制作のネタの準備
11		講義・演習	個人制作のプロジェクト決定をする。 また制作開始ができる。	実際に使う素材の準備
12		講義・演習	個人制作:自身のプロジェクト制作 素材読み込み、オー ディオデータとの同期をする。	作品のインスピレーションを探す
13		講義・演習	個人制作の発表をする。	作業フローの確認・復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (3) (ダンス基礎 (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (4) (ダンス基礎 (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (3) (Diction(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	相澤 なな み
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、アーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。
2		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		講義・演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		講義・演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		講義・演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		講義・演習	フォークソングの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する
8		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する
9		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへの表現が実践できる	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する
10		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する
11		講義・演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する
12		講義・演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究
13		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験上復習	英語を発音するための研究 振り返りを行いレポートを作成する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (4) (Diction(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	相澤 なな み
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向上、基礎力の定着及び、応用力とアーティストとしての表現力の向上						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
2		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		講義・演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		講義・演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		講義・演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		講義・演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		講義・演習	フォーク系リズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する
8		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する
9		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する
10		講義・演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
11		講義・演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する
12		講義・演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。
13		講義・演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験上復習	英語を発音するための母音・子音の確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (3) (Piano Duo(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (4) (Piano Duo (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (3) (Chorus Work (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1."1.音楽する上でハーモニーは必要不可欠な為この授業を受講する意味がある 2. 全ての授業にハーモニーはリンクする 3.どんな曲にも対応できるハーモニー感覚を養ってほしい 4.これらを踏まえコードを使い音感を鍛える耳を鍛える実践に使える講義をする "						
到達目標	1.まずはハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを確実に身に付ける 2.次に4.5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを身に付ける 3.1番難しいとされるユニゾン、オクターブユニゾンを身に付ける 4.最終的に人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする						
評価方法と基準	授業内発表60%(出席率含む) 授業内取り組み30% 独自に作っているコメントシート記入10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基本である姿勢・呼吸、体幹を学ぶ	オリジナル体幹理論プリント使用
2		講義・演習	様々なコードを使い音感を鍛える	コードプリントで事前学習
3		講義・演習	コードを使ったハーモナイズ実践	前週に配布したコードプリント参照
4		講義・演習	基本の3度ハーモニーを学ぶ	引き続きプリント参照
5		講義・演習	4.5.6.7度のハーモニーも加えて学ぶ	プリントで事前学習
6		講義・演習	既存の楽曲を使いハーモニー実践	その場で楽譜配布して読譜する
7		講義・演習	前週の楽曲を更に深め仕上げる	楽譜を読んで準備学習させる
8		講義・演習	グループを作り色々な人とハーモニー実践	プリントで事前学習
9		講義・演習	グループで楽曲を使いハーモニーを付ける練習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
10		講義・演習	前週の復習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
11		講義・演習	グループ変えてハーモニー実践	グループ変えてハーモニー実践
12		講義・演習	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
13		講義・演習	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Inst Ensemble B (4) (Chorus Work (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1.前期に学んだ内容を更に深め仕事の現場で使える力を養う 2.ア・カペラ含む更に高度な技術を身に付ける 3.譜面を使い初見カトレーニング						
到達目標	1.読譜力、初見力をトレーニングし現場で実践に繋げる力を養う 2.どんな曲にもハーモニーを付けられる実力を付ける 3.ハーモニーを通して、音感、リズム感、自身の歌唱力も向上させる						
評価方法と基準	前期同様プラス学校のイベントや学校の案件にどれだけ参加したかも成績に加味する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	課題曲実践	夏休み中に出した課題曲の練習
2		講義・演習	前週の復習で修正や内容の掘り下げ	課題曲の練習
3		講義・演習	1人1人課題曲を決めハーモニー付け	パートナーと課題曲の練習
4		講義・演習	前週の引き続き実践	パートナーと課題曲の練習
5		講義・演習	ア・カペラで音感を養う	配布プリントで事前学習
6		講義・演習	様々な楽曲をア・カペラで実践	配布プリントで事前学習
7		講義・演習	ア・カペラを使ってグルーヴ感ピッチ感 矯正する	シェーカー等事前告知し練習する
8		講義・演習	少人数～大人数でのア・カペラ体験	配布プリントで事前学習
9		講義・演習	前週のア・カペラをブラッシュアップ	事前に映像等紹介し練習する
10		講義・演習	クラップやスナップ取り入れて ア・カペラ実践	配布プリントで事前学習
11		講義・演習	実践踏まえたハーモナイズ 身体のスイング等取り入れて歌う	配布プリントで事前学習
12		講義・演習	前期、後期の総まとめ	コメントシート
13		講義・演習	前期、後期の総まとめ	コメントシート
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜				

科目名	Vocal Reading (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義・演習	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義・演習	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義・演習	B♭ メジャースケールについて説明できる。	B♭ メジャースケール復習レポート作成
5		講義・演習	B♭ メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭ メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義・演習	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義・演習	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義・演習	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義・演習	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義・演習	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義・演習	Dメジャースケールについて説明できる。 E♭メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	Dメジャースケール復習レポート作成 E♭メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義・演習	Dマイナースケールについて説明できる。 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	Dマイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Vocal Reading (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷 穰
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義・演習	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義・演習	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義・演習	B♭ メジャースケールについて説明できる。	B♭ メジャースケール復習レポート作成
5		講義・演習	B♭ メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭ メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義・演習	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義・演習	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義・演習	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義・演習	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義・演習	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義・演習	Dメジャースケールについて説明できる。 E♭メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	Dメジャースケール復習レポート作成 E♭メジャースケール。マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義・演習	Dマイナースケールについて説明できる。]種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。	Dマイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Private Lesson(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	斉藤 純
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パークリー音楽大学進学を目指すドラマーのための総合的なドラムスキルの強化、アンサンブル演奏に対応する考え方やスキル、即興演奏方法と技術、アメリカン・ジャズスタイルの習得を行うプライベートレッスン。						
到達目標	学生が持ち込む課題や悩みを解決しつつ、Berkeley音楽大学の受験に必要な演奏技術、リズム感、即興力を養い、合格に向けた実践的なスキルを習得することを目指す。						
評価方法と基準	演奏技術の向上、課題解決の達成度、即興力の発展度を基準とし、予習復習などプライベートレッスンへの取り組みの姿勢等を総合的に評価し、Berkeley受験に必要なレベルに達しているかを判断する。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	初回は学生の現状把握、課題や目標の確認、レッスンプランの策定。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
2		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
3		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
4		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
5		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
6		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
7		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
8		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
9		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
10		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
11		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
12		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
13		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Private Lesson(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	斉藤 純
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	パークリー音楽大学進学を目指すドラマーのための総合的なドラムスキルの強化、アンサンブル演奏に対応する考え方やスキル、即興演奏方法と技術、アメリカン・ジャズスタイルの習得を行うプライベートレッスン。						
到達目標	学生が持ち込む課題や悩みを解決しつつ、Berkeley音楽大学の受験に必要な演奏技術、リズム感、即興力を養い、合格に向けた実践的なスキルを習得することを目標とする。						
評価方法と基準	演奏技術の向上、課題解決の達成度、即興力の発展度を基準とし、予習復習などプライベートレッスンへの取り組みの姿勢等を総合的に評価し、Berkeley受験に必要なレベルに達しているかを判断する。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	初回は学生の現状把握、課題や目標の確認、レッスンプランの策定。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
2		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
3		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
4		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
5		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
6		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
7		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
8		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
9		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
10		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
11		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
12		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
13		講義・演習	毎回学生からの質疑応答をもとに指導内容を調整し、問題解決のために適切な課題を出しながら学習を進めます。	学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			学生は事前に疑問点や課題を整理し、課題は個々の目標に応じて提示され、次のレッスンで確認します。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Broadway seminar (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小串マリア
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要な基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	イントネーションテクニックをを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Broadway seminar (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小串マリア
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイティブワークショップ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して、最低3回のプレゼンテーションを行う。②学期末に1コーラス以上の作品を提出する。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イントロダクション	
2		講義・演習	インターバルの復習、Top Liningの実践	課題制作
3		講義・演習	テスト、Show vs Tellを理解する	課題制作
4		講義・演習	トライアドコードの復習、比喩のgroup work	課題制作
5		講義・演習	7thコードの復習、ここまでのまとめの小作曲	課題制作
6		講義・演習	メジャーコード、ワンコードの作曲	課題制作
7		講義・演習	マイナーコード、ワンコードの作曲2	課題制作
8		講義・演習	メジャーコード進行を作って小作曲	課題制作
9		講義・演習	マイナーコード進行を作って小作曲	課題制作
10		講義・演習	キーカラーを理解し小作曲	課題制作
11		講義・演習	期末課題に向けてQ&A	期末課題制作
12		講義・演習	作品提出、期末課題プレゼン1	プレゼン準備
13		講義・演習	期末課題プレゼン2	プレゼン準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイティブワークショップ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して3～4回以上プレゼンをする(回数はクラスによって異なる)②学期末にオリジナル曲をパフォーマンスする。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習		
2		講義・演習		
3		講義・演習		
4		講義・演習		
5		講義・演習		
6		講義・演習		
7		講義・演習		
8		講義・演習		
9		講義・演習		
10		講義・演習		
11		講義・演習		
12		講義・演習		
13		講義・演習		
14		講義・演習		
15		講義・演習		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Theory (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	ダイアトニック・コード・プログレッション、コードスケールを理解し説明できる。	ダイアトニック・コード・プログレッション、コードスケールの復習レポート作成	
2		講義・演習	コンポジションとしての転調、アレンジングとしての転調を理解し説明できる。	コンポジションとしての転調、アレンジング復習レポート作成	
3		講義・演習	コード進行の分析と創作、その概要と技法を理解し説明できる。	コード進行の分析と創作復習レポート作成	
4		講義・演習	メロディーとハーモニーの関係を理解し説明できる。	メロディーとハーモニーの関係における復習レポート作成	
5		講義・演習	メロディーとハーモニーの関係を理解し説明できる。	メロディーとハーモニーの関係における復習レポート作成	
6		講義・演習	”ヴォイス・リーディング”と”ガイド・トーン・ライン”作曲、編曲、即興演奏を理解し説明できる。	”ヴォイス・リーディング”と”ガイド・トーン・ライン”作曲、編曲、即興演奏復習レポート作成	
7		講義・演習	中間テスト、及び中間課題の復習	中間テスト、及び中間課題の説明と準備。	
8		講義・演習	中間確認試験と復習	中間課題レポートの提出準備	
9		講義・演習	メロディーの作法:メロディーの分析を理解し説明できる。	メロディーの作法:メロディーの分析復習レポート作成	
10		講義・演習	メロディーの作法:メロディーの装飾を理解し説明できる。	メロディーの作法:メロディーの装飾復習レポート作成	
11		講義・演習	メロディーの作法:モチーフの概要を理解し説明できる。	メロディーの作法:モチーフの概要復習レポート作成	
12		講義・演習	メロディーの作法:モチーフを発展させるその技法を理解し説明できる。	メロディーの作法:モチーフを発展させるその技法復習レポート作成	
13		講義・演習	ハーモニー(コード進行)の装飾:パッシング・コード、アプローチ・コードを理解し説明できる。	ハーモニー(コード進行)の装飾:パッシング・コード、アプローチ・コード復習レポート作成	
14		講義・演習	学期末テスト、及び学期末課題の説明と準備。	学期末テスト、及び学期末課題の説明と準備。	
15		講義・演習	期末確認試験と復習	期末課題レポートの提出準備	
準備学習 時間外学習			業界で資料する音楽理論の習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Music Theory (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲作曲や楽曲アレンジができるようになる。						
評価方法と基準	筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	メロディー、コード進行の分析、メロディーとコード進行の関係、メロディーの作法を理解し説明ができる。	メロディー、コード進行の分析、メロディーとコード進行の関係、メロディーの作法の復習レポート作成
2		講義・演習	ノン・ファンクショナル・ドミナント・セヴンス・コードを理解し説明ができる。	ダイアトニック・ハーモニーの拡張 ①ノン・ファンクショナル・ドミナント・セヴンス・コード復習レポート作成
3		講義・演習	モーダルインターチェンジを理解し説明ができる。	モーダルインターチェンジ復習レポート作成
4		講義・演習	ハイブリッド・ヴォイスिंगを理解し説明ができる。	ハイブリッド・ヴォイスिंग復習レポート作成
5		講義・演習	リハーモニゼーションⅠを理解し説明ができる。	リハーモニゼーションⅠ 復習レポート作成
6		講義・演習	リハーモニゼーションⅡを理解し説明ができる。	リハーモニゼーションⅡ 復習レポート作成
7		講義・演習	リハーモニゼーションⅡを理解し説明ができる。	中間テスト、及び中間課題の説明と準備。
8		講義・演習	中間確認試験と復習	中間課題レポートの提出準備
9		講義・演習	モーダル・ハーモニーを理解し説明ができる。	モーダル・ハーモニー復習レポート作成
10		講義・演習	モーダルライティング、オスティナート、ペダルポイントを理解し説明ができる。	モーダルライティング、オスティナート、ペダルポイント復習レポート作成
11		講義・演習	ヴォイスिंगのテクニックを理解し説明ができる。	ヴォイスिंगのテクニックの復習レポート作成
12		講義・演習	コンスタント・ストラクチャーをはじめとした、ポスト・ビバップ・ハーモニーを理解し説明ができる。	コンスタント・ストラクチャーをはじめとした、ポスト・ビバップ・ハーモニー復習レポート作成
13		講義・演習	最新の拡張された、ハーモニー、メロディー、リズム的なコンセプトを理解し説明ができる。	最新の拡張された、ハーモニー、メロディー、リズム的なコンセプト復習レポート作成
14		講義・演習	ヴォイスिंगのテクニックを理解し説明ができる。	学期末テスト、及び学期末課題の説明と準備。
15		講義・演習	期末確認試験と復習	期末課題レポートの提出準備
準備学習 時間外学習			業界で資料する音楽理論の習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義・演習	実際のメロディー:順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義・演習	実際のメロディー:順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義・演習	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義・演習	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義・演習	実際のメロディー:モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義・演習	実際のメロディー:モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義・演習	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー:跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
9		講義・演習	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義・演習	モード(ダイアトニック・コード・スケール):リディアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール):リディアンの復習レポート作成
11		講義・演習	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ドリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ドリアンの復習レポート作成
12		講義・演習	モード(ダイアトニック・コード・スケール):フリジアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール):フリジアンの復習レポート作成
13		講義・演習	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ロクリアンを理解し説明できる。	モード(ダイアトニック・コード・スケール):ロクリアンの復習レポート作成
14		講義・演習	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード(ダイアトニック・コード・スケール)の復習レポート作成
15		講義・演習	期末確認試験と復習	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Ear Training (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北澤由佳
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義・演習	ペントニック・スケール(メジャー、マイナー)理解し説明ができる	ペントニック・スケール(メジャー、マイナー)の復習確認レポート作成
3		講義・演習	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義・演習	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義・演習	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義・演習	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義・演習	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義・演習	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
9		講義・演習	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義・演習	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義・演習	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義・演習	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義・演習	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義・演習	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義・演習	期末確認試験と復習	学期末課題の発表・提出。
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music History (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田 剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、ポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。 その歴史や文化に触れ、グローバルな視点でアメリカ・イギリス中心とした英語圏におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。						
到達目標	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト80% 2) 平常点20%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	ロックミュージックのルーツ	ポピュラー音楽を学ぶ事＝アメリカの黒人音楽を知る～授業目的の確認 どのように学ぶのか？ 授業の進め方(IT資料、音源、DVD、実演)の確認 オールディーズ資料としてアメリカングラフィティ考察	
2		講義・演習	20世紀初期のポピュラーミュージック	最も売れたアーティストはジャズ、ヒップホップ、マイケル・ジャクソン、 ブルースの共通点アメリカの黒人音楽を世界に広めたパフォーマー。 ブルースの特徴(コード進行、12小節)をクロスロード(ロバートジョンソン、エリッククラプトン)と考察し、パターン化を考察する。	
3		講義・演習	ロックンロールの誕生	て、アメリカ黒人音楽であるR&Bを学ぶ。 また、自分のアタマで考えることを教える。例えばメンフィスは黒人が多く住んでたところなど	
4		講義・演習	フォークミュージックの再燃と公民権運動	ボブディランを中心にフォークソングを考察。代表曲：風に吹かれて の歌詞の内容を時代背景とともに理解する。 また、時代は異なるが、イマジンはジョンレノン の歌詞の本質を学ぶ。	
5		講義・演習	イギリス・ポップミュージックの台頭	ビートルズ～ イギリスアーティストのアメリカ市場への侵攻 ペビーブーム世代 当時の若者の考え方を知る。	
6		講義・演習	フラワームーブメント	フラワームーブメント、 hippie、LOVE&PEACE、公民権運動、ベトナム戦争を、音楽に込められた若者のメッセージとともに説明できるようにする。	
7		講義・演習	ポイント整理	R&Rの誕生からウッドストックまでの流れを、しっかりと理解する。	
8		講義・演習	パンクロック。ニューウェイブ	ロッキング・オン誌のベストアルバム、ビルボード、MTV、ラジオ、映画、テレビ、雑誌、CD、ビデオ、ゲーム、インターネット、スマートフォン、タブレット、クラウドファンディング、P2P、仮想通貨、ブロックチェーン、AI、IoT、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、量子コンピューティング、ナノテクノロジー、宇宙開発、再生可能エネルギー、持続可能な開発目標(SDGs)、パリ協定、気候変動対策、デジタル変革、働き方改革、教育改革、医療革新、農業革新、製造業革新、サービス業革新、金融革新、不動産革新、物流革新、交通革新、エネルギー革新、環境革新、社会福祉革新、文化革新、スポーツ革新、エンターテインメント革新、ファッション革新、美容革新、健康革新、食生活革新、ペットケア革新、高齢者ケア革新、障害者ケア革新、外国人労働者ケア革新、移民ケア革新、難民ケア革新、人道支援革新、国際協力革新、グローバルビジネス革新、国際法革新、国際関係革新、国際政治革新、国際経済革新、国際文化革新、国際教育革新、国際科学技術革新、国際安全保障革新、国際平和革新、国際正義革新、国際公平革新、国際透明革新、国際誠信革新、国際責任革新、国際信頼革新、国際協調革新、国際共生革新、国際発展革新、国際繁栄革新、国際平和革新、国際正義革新、国際公平革新、国際透明革新、国際誠信革新、国際責任革新、国際信頼革新、国際協調革新、国際共生革新、国際発展革新、国際繁栄革新	
9		講義・演習	MTVの時代	80年代MTV 80年代ビルボードTOP10 マイケルジャクソン「スリラー」考察 MTVのスタートによりプロモーションのあり方自体に大きな変革をもたらしたこと シンセサイザーの発達 女性アーティストの躍進にも注目する。	
10		講義・演習	ヒップホップの誕生	1970年代後半のニューヨーク市、ブロンクス地区の黒人青年たちが、リズム・アンド・ブルース、ソウル、ファンクの要素を取り入れ、独自のスタイルを生み出した。この頃にはまだヒップホップという名前もなかったが、DJによる楽曲の切り替えや、MCによるラップ、ブレイクダンス、グラフィティの4つの要素が中心となっていた。	
11		講義・演習	21世紀の始まり	今世紀に入ってからポピュラー音楽の傾向を理解する 新たなメディア(Youtube)との向き合い方を各自で考える。	
12		講義・演習	テスト		
13		講義・演習	振り返り		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Music History (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田 剛
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、主にヨーロッパ及びアメリカで発生し発展してきた芸術音楽について概要を学びます。 その歴史(中世～20世紀)の中で対位法、オペラ、無調性音楽などに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる。それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品と西洋音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 平常点40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	中世の音楽 音楽の始まり～グレゴリオ聖歌 教会旋法	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 レベルチェック:小テスト 身近なクラシック曲(あし笛の踊り)
2		講義・演習	ルネッサンス期の音楽	配布プリント(年表、ルネサンス、バッハのメヌエット) 目標再確認、メヌエットで学ぶ対位法、ルネサンス音楽を聴く
3		講義・演習	バロック期の音楽(オペラ)	バロックという時代を知る。 オペラの始まり1600～バッハの死1750 名作: 蝶々夫人 椿姫 魔笛 コシ・ファン・トゥッテ 鑑賞 考察: オペラ歌手 ソプラノ(コロラトゥーラ、リリコ、などの違いを聴き分ける)
4		講義・演習	J.S.バッハの音楽	バロックとバッハ 時代と背景 対位法、カノン形式について学習する 主よ、人の望みの喜びよ バッハベルのカノン オペラとオラトリオ などフ リントに沿って学習
5		講義・演習	クラシック音楽”の時代(ハイドン、モーツァ ルト)	モーツァルトと古典派 ソナタ形式と交響曲の構成を理解する。その他、協奏 曲とはどんな音楽か説明できるようにする。
6		講義・演習	ここまでのポイント整理	カノン形式、ソナタ形式、交響曲の構成、オペラと オラトリオの違いなどを言葉で説明できる。
7		講義・演習	クラシック音楽”の時代(ベートーベン)	ベートーヴェンと古典派～ロマン派の流れを理解する 交響曲『運命』(ソナタ形式)、エリーゼのために、月光など代表曲。 ハイド ン『天地創造』(オラトリオ)
8		講義・演習	初期ロマン派の音楽(シューベルト、ペルリ オーズ)	ロマン派①シューベルト ペルリオーズなど考察 ショパン、シューマン、リスト、メンデルスゾーン(主だったピアノ曲) を聴き ピアノという楽器の歴史を理解する。
9		講義・演習	後期ロマン派の音楽(ワーグナー、マーラー)	ロマン派②ワーグナー、フェルディナント・リッヒャード、ブラームスと世、ワーグ ス、ドヴォルザーク 前週からの2週で、ロマン派の音楽が重視した人間の感情や個性を理解す る。
10		講義・演習	20世紀の音楽(ストラヴィンスキー)	1882～1971 初期の3 作品『火の鳥』、『ペト ルーシュカ』、『春の祭典』)
11		講義・演習	20世紀の音楽(シェーンベルグ) ケージ、ヴェーブルン 芸術音楽	シェーンベルクを中心に20世紀の音楽 12音技法の解 説 音列を知る その他(サティ、ラヴェルなど)
12		講義・演習	テスト	
13		講義・演習	振り返り	中世から20世紀までの時代を振り返り、曲の雰囲気やイデオロギがどのように 確認する。 オーケストラの基本編成や様々なジャンル(交響曲、協奏曲、ピアノ曲)を再 認識する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Traditional Harmony & Composition (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	窪田想士
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではクラシック音楽理論とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なクラシック音楽理論と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コース概要の説明。音階、音程を説明できる。	コース概要の説明。音階、音程の復習レポート作成
2		講義・演習	コードタイプ、ダイアトニックコード、ソプラノ・アルト・テナー・バリトンの音域を説明できる。	コードタイプ、ダイアトニックコードの復習レポート作成
3		講義・演習	ヴォイスリーディングの法則(メジャーキー)を説明できる。	ヴォイスリーディングの法則の復習レポート作成
4		講義・演習	ルートポジションの3和音、主要和音と非主要和音を説明できる。	3和音、主要和音と非主要和音の復習レポート作成
5		講義・演習	ヴォイスリーディングの法則を説明できる。	ヴォイスリーディングの法則の復習レポート作成
6		講義・演習	転回形とフィギュアドベースについて説明できる。	転回形とフィギュアドベースの復習レポート作成
7		講義・演習	転回形とフィギュアドベースについて説明できる。	転回形とフィギュアドベースの復習レポート作成
8		講義・演習	中間テスト、及び中間課題の提出。	転回形とフィギュアドベースの復習レポート作成
9		講義・演習	マイナーキーにおけるヴォイスリーディングの法則について説明できる。	マイナーキーの復習レポート作成
10		講義・演習	与えられたメロディーの和声づけ、終止形について説明できる。	メロディーの和声づけ、終止形の復習レポート作成
11		講義・演習	与えられたメロディーの和声づけ、フレーズ、終止形、楽句について説明できる。	メロディーの和声づけ、フレーズ、終止形の復習レポート作成
12		講義・演習	セブンスコード、転回形、ヴォイスリーディング、ノンコードトーンについて説明できる。	セブンスコード、転回形の復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験及び期末課題の提出。	総復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Traditional Harmony & Composition (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	窪田想士
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではクラシック音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なクラシック音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	トラディショナルハーモニー & コンポジションを説明できる。	トラディショナルハーモニー & コンポジションの復習レポート作成。
2		講義・演習	セカンダリードミナントとその他のノンダイアトニックコード解説できる。	セカンダリードミナントのの復習レポート作成
3		講義・演習	転調について説明できる	転調のの復習レポート作成
4		講義・演習	借用コードを解説する。	借用コードのの復習レポート作成
5		講義・演習	セブンスコードとテンションコード(9th、11th、13th)を解説する。	セブンスコードのの復習レポート作成
6		講義・演習	増6のコードと”ナポリの6度”のコードを解説できる。	増6のコードと”ナポリの6度”のコード復習
7		講義・演習	増6のコードと”ナポリの6度”のコードを解説できる。	増6のコードと”ナポリの6度”のコード復習
8		講義・演習	借用コードを解説する。	借用コードのの復習レポート作成
9		講義・演習	借用コードの概念の拡大と転調の技法解説できる。	概念の拡大と転調の技法の復習レポート作成
10		講義・演習	機能と声外の和声の解説できる。	機能と声外の和声のの復習レポート作成
11		講義・演習	楽曲の形式の応用を学び、報告する。	楽曲の形式の復習レポート作成。
12		講義・演習	19世紀の音楽を解説できる。	19世紀の音楽の分の復習レポート作成
13		講義・演習	期末試験と復習	1-12回までの復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Arranging (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	福原雄太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズムセクションのアレンジングの仕方を学ぶ。						
到達目標	リズムセクションとメロディ楽器を用いて、1曲通してアレンジを書けるようにする。						
評価方法と基準	プロジェクト成績(100点満点)＋出席率(30点満点)＋受講態度(30点満点)を合算した数値(160点満点)をxとして、 $x/160 \times 100$ の式において出た数値(100点満点)を評価とする。出席率の配点方法は以下の通り。0-50% +0点 51-60% +10点 61-70% +15点 71-80% +20点 81-90% +25点 91-100% +30点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コースの紹介、アレンジングの概要	特に無し
2		講義・演習	リズムセクション	資料の振り返りを行う
3		講義・演習	ドラムとベース	資料の振り返りを行う
4		講義・演習	メロディとソングフォーム	資料の振り返りを行う
5		講義・演習	スコアレイアウトとアレンジメントフォーム	資料の振り返りを行う
6		講義・演習	トリオの書き方(メロディ、ベース、ドラム)	資料の振り返りを行う
7		講義・演習	いろいろなスタイル(Rock/Pops/Swing/Bossa	資料の振り返りを行う
8		講義・演習	期末プロジェクトの説明、曲とメロディ楽器の選	資料の振り返りを行う
9		講義・演習	スコアレイアウトとフォームの復習、記譜の説明	取り組んでいる課題の研究
10		講義・演習	ギターとピアノ(キーボード)の書き方	取り組んでいる課題の研究
11		講義・演習	アレンジングプロセスについて	取り組んでいる課題の研究
12		講義・演習	解説予備日、演習	取り組んでいる課題の研究
13		講義・演習	期末プロジェクトの期日、発表	取り組んでいる課題の研究
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Arranging (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	福原雄太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ホーンセクションのアレンジングの仕方を学ぶ。						
到達目標	ホーンセクションとリズムセクションを用いて、1曲通してアレンジを書けるようにする。						
評価方法と基準	プロジェクト成績(100点満点)＋出席率(30点満点)＋受講態度(30点満点)を合算した数値(160点満点)をxとして、 $x/160 \times 100$ の式において出た数値(100点満点)を評価とする。出席率の配点方法は以下の通り。0-50% +0点 51-60% +10点 61-70% +15点 71-80% +20点 81-90% +25点 91-100% +30点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コースの紹介、アレンジング1の復習	特に無し
2		講義・演習	メロディとハーモニーの関係	資料の振り返りを行う
3		講義・演習	ソロ、ユニゾン、オクターブメロディ、メロディの装飾	資料の振り返りを行う
4		講義・演習	4-part Soli、ボイスン、4way close, drop2, drop3, drop2&4	資料の振り返りを行う
5		講義・演習	4-part Soli、アプローチテクニック、ローインターバルリミット	資料の振り返りを行う
6		講義・演習	2&3-part Soli	資料の振り返りを行う
7		講義・演習	期末プロジェクトの説明、曲とホーンセクションの選択	資料の振り返りを行う
8		講義・演習	ボイスリーディングとガイドトーンライン	取り組んでいる課題の研究
9		講義・演習	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドボイスン	取り組んでいる課題の研究
10		講義・演習	ガイドトーンラインとカウンターメロディによるメロディの装飾	取り組んでいる課題の研究
11		講義・演習	リードの独立とミックスソリボイスン、アーティキュレーション	取り組んでいる課題の研究
12		講義・演習	解説予備日、演習	取り組んでいる課題の研究
13		講義・演習	期末プロジェクトの期日、発表	取り組んでいる課題の研究
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Counterpoint(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	窪田想士
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アレンジングを理解し説明ができる	アレンジング 復習レポート作成
2		講義・演習	メロディーとハーモニーの関係。和声音と非和声音。コードシンボルを理解し説明ができる	和声音と非和声音。コードシンボルの復習レポート作成
3		講義・演習	楽器グループと音域。ソロ、ユニゾン、オクターブメロディー。メロディーのアレンジメントを理解し説明ができる	楽器グループと音域の復習レポート作成
4		講義・演習	4パートソリ。メカニカルヴォイスイング(4ウェイクローズ、ドロップ2、ドロップ3、ドロップ2+4)を理解し説明ができる	4パートソリ。メカニカルヴォイスイングの復習レポート作成
5		講義・演習	4パートソリ。アプローチテクニック。ローインターヴァルリミットを理解し説明ができる	ローインターヴァルリミットの復習レポート作成
6		講義・演習	2パートソリ、3パートソリを理解し説明ができる	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
7		講義・演習	中間課題の説明を理解し述べることができる。	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
8		講義・演習	中間課題の説明を理解し述べることができる。	ローインターヴァルリミットの復習レポート作成
9		講義・演習	ヴォイスリーディングとガイドトーンラインを理解し説明ができる	ヴォイスリーディングの復習レポート作成
10		講義・演習	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイスイングを理解し説明ができる	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイスイングの復習レポート作成
11		講義・演習	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディーを理解し説明ができる	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディー復習レポート作成
12		講義・演習	インデペンデントリード。ソリとの混用を理解し説明ができる	インデペンデントリードの復習レポート作成
13		講義・演習	アーティキュレーション。編曲の手順、復習、詳細、そして練習を理解し説明ができる	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Counterpoint(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	窪田想士
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では対位法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要な対位法の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「カウンターポイントとは何か？」音階と音程の説明ができる。	音階と音程復習レポート作成。
2		講義・演習	メロディーとは？メロディーの作法。カンタスファーマスとは。	メロディーの作法の復習レポート作成。
3		講義・演習	第1類(ファーストスピーシーズ 1:1)	第1類復習レポート作成。
4		講義・演習	第2類(セカンドスピーシーズ 1:2)	第2類復習レポート作成。
5		講義・演習	第3類(サードスピーシーズ 1:4)	第3類復習レポート作成。
6		講義・演習	第4類(フォーススピーシーズ 移勢)	第4類復習レポート作成。
7		講義・演習	第4類(フォーススピーシーズ 移勢)	中間試験のための復習レポート作成。
8		講義・演習	中堅テスト及び中間課題提出と復習	1~8回の復習レポート作成。
9		講義・演習	フリーカウンターポイント。第1～第4類の復習。	フリーカウンターポイント復習レポート作成。
10		講義・演習	カノン、オクターブでの厳格な模倣。	カノン、オクターブ復習レポート作成。
11		講義・演習	カノン、フリーカノン。	カノン、フリーカノン復習レポート作成。
12		講義・演習	カノン、インヴァージョンとリトログレイド。	カノン、インヴァージョンとリトログレイド復習レポート作成。
13		講義・演習	期末試験及び復習	1-12復習レポート作成。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			業界で資料するクラシックアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バークリー試験対策(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岡居 啓介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バークリー音楽大学へ留学し、第二位優等(Magna Cum Laude)を受賞し卒業。中学生の頃から黒人差別の歴史と						
授業の学習 内容	Audition & Interviewに向けた実践的な対策を行う。Interview対策を継続しながら、Ear Training、Sight Reading、Improvisation、Prepared Piece(自由演奏)など、Audition各項目に必要な知識と技能を段階的に習得する。						
到達目標	Interviewにおいて自身の考えや目標を説明できる Ear TrainingおよびSight Readingの実践力を身につける ImprovisationおよびPrepared Pieceに必要な演奏力を向上させる Audition各項目の評価基準を理解している						
評価方法と基準	授業への参加状況、課題への取り組み状況、授業内演習への参加度を総合的に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	受験スケジュール確認と目標設定	受験までの計画を確認する
2		講義・演習	Interview対策① 自己分析	自身の活動内容を整理する
3		講義・演習	Interview対策② 志望理由	志望理由をまとめる
4		講義・演習	Interview対策③ キャリアビジョン	将来目標を整理する
5		講義・演習	Ear Training実践①	聴音練習を行う
6		講義・演習	Ear Training実践②	リズム・音程の聴き取り練習を行う
7		講義・演習	Sight Reading実践①	読譜練習を行う
8		講義・演習	Sight Reading実践②	初見演奏・初見歌唱に取り組む
9		講義・演習	Interview対策④ 模擬Interview	想定質問への回答を準備する
10		講義・演習	Improvisation基礎	即興演奏の基礎練習を行う
11		講義・演習	Improvisation実践	コード進行を用いた練習を行う
12		講義・演習	Prepared Piece研究	自由演奏曲の選定・練習を行う
13		講義・演習	総合演習①	これまでの学習内容を復習する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践内容の振り返りを行う
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践で得た学びをレポートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バークリー試験対策(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岡居 啓介
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バークリー音楽大学へ留学し、第二位優等(Magna Cum Laude)を受賞し卒業。中学生の頃から黒人差別の歴史と						
授業の学習 内容	バークリー音楽大学への出願およびAudition & Interview受験に向けて、出願手続きや必要資料の準備を行う。また、模擬試験や個別指導を通して各学生の課題を整理し、本番を想定した総合的な試験対策を実施する。						
到達目標	出願に必要な手続きを理解し、適切に準備できる Audition & Interviewの各試験項目に対応できる 模擬試験を通して自身の課題を把握できる バークリー編入試験に向けた総合的な準備を行うことができる						
評価方法と基準	授業への参加状況、課題への取り組み状況、授業内演習への参加度を総合的に評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	出願ガイダンス・受験スケジュール確認	出願要項を確認する
2		講義・演習	ネット出願準備	必要情報を整理する
3		講義・演習	出願書類・必要資料確認	必要資料を準備する
4		講義・演習	Interview対策⑤	想定質問への回答を整理する
5		講義・演習	Improvisation実践①	即興演奏の練習を行う
6		講義・演習	Improvisation実践②	コード進行を用いた即興演奏に取り組む
7		講義・演習	Prepared Piece実践①	自由演奏曲の練習を行う
8		講義・演習	Prepared Piece実践②	演奏表現や構成を見直す
9		講義・演習	模擬Interview	模擬面接の準備を行う
10		講義・演習	模擬Audition	試験内容を復習する
11		講義・演習	個別課題対策①	個別課題に取り組む
12		講義・演習	個別課題対策②	個別課題に取り組む
13		講義・演習	総合演習(Audition & Interview)	本番を想定した準備を行う
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践内容の振り返りを行う
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	実践で得た学びをレポートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(1) (韓国語Optional(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(2) (韓国語Optional(4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	徐慧精
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	Global Communication (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be 動詞 (am, are) を使って自己紹介 (国籍や出身) する、または出身地を尋ねる会話を練習、疑問代名詞 [What] を使って、自分の個人情報相手を伝え、また相手の情報を聞く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、友達や家族について説明する		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて話す、友達についての紹介文を書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	名詞の所有を表す [s] と [s'] を使って、自分の家について話す、[it is] を使って、家具について話す、		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているのかを話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	コミュニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品のレビューを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」・前期発表と運動する内容		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自分の行動についてのレポートを読む、書く		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表		オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける		
【使用教科書・教材・参考書】					
EVOLVE 2					

科目名	Global Communication (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can' t] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can' t] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
EVOLVE 2				

科目名	日本語講座 (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト (20～30分) テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならでは、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あっての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				

科目名	日本語講座 (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	神田智子
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～をにおいて他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかな ～とは言えないまでも ～とい～とい 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働かせる語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
『外国人留学生のための就活ガイド』				